

様式第3号(第7条関係)

会 議 録

- 1 附属機関の会議の名称 令和5年度第1回水戸市協働推進委員会
- 2 開催日時 令和5年5月30日(火) 午後1時30分から午後2時50分まで
- 3 開催場所 水戸市役所4階 中会議室1～3
- 4 出席した者の氏名
- (1) 委員 金本 節子, 大野 覚, 谷萩 美智子, 大竹 隆志, 鹿倉 よし江,  
檜村 晶洋, 小島 幸子
- (2) 執行機関 【市民生活課】参事兼課長 白石 嘉亮,  
副参事兼課長補佐 入野 高司,  
協働係長 橋崎 真哉, 主事 松川 のぞみ  
【泉町周辺地区開発事務所】次長 磯前 直志  
主幹 寺門 大樹  
【介護保険課】管理係長 大谷 明寛  
【観光課】主事 島田 美月  
一般財団法人 水戸市農業公社 次長 海野 尚史  
【農政課】ふるさと農業センター所長 長谷川 祐紀  
主幹 川和 勇一  
【公園緑地課】千波湖管理室長 佐野 彰信  
千波湖係長 秋葉 健介
- (3) その他 NPO法人セカンドリーグ茨城  
特定非営利活動法人ちいきの学校  
常磐大学地域連携センター  
株式会社ナムチェバザール  
NPO法人Happyリレーいろいろ
- 5 議題及び公開・非公開の別 水戸市協働事業提案制度「わくわくプロジェクト」令和4年度  
事業報告会(公開)  
全体審議(非公開)
- 6 非公開の理由 (全体審議)  
① 公にすることにより, 当該団体の権利, 競争上の地位その他

正当な利益を害するおそれがあるため。

- ② 公にすることにより，率直な意見の交換若しくは意思決定の中立性が不当に損なわれるおそれ又は不当に市民の間に混乱を生じさせるおそれがあるため。

7 傍聴人の数(公開した場合に限る。) 2人

8 会議資料の名称 令和4年度実施事業の概要

9 発言の内容

【事業報告会】

事務局	(開会の挨拶，進行についての説明)
委員長	ただいまから，水戸市協働事業提案制度「わくわくプロジェクト」の令和4年度実施事業の事業報告会を始める。令和4年度に実施した5事業について，協働事業者と市担当課から，事業の概要，協働による効果，成果などについて発表していただく。
協働事業者 泉町周辺地区開 発事務所	〔発表：市民参画による道路等パブリック空間の有効活用検討事業〕
委員	去年の11月に実際に見学したが，あいにくの雨であった。実際に訪れた印象では，目的が何なのか，メインが何なのか，誰を目的に集めているのか分からなかった。シニアや子どもの来場も少なかった。ただ農家のものを売り，遊べるものを用意するのではなく，対象を絞り，メインを決めて打ち出す必要があると感じた。初めての開催で難しかったであろうが，もっとわくわくするような楽しいものがあれば，天気が悪くても行ってみよう誘うことができる。全体としてわくわく感がなかった。
協働事業者	ご意見ありがたい。天候により開催を迷ったが，開催することができた。わくわく感に関しては，やろうと思っていたものが悪天候により実施できなかった。しかし，目的としては，道端で催しをできるというケースを作りたかった。未完成であったが，御意見をもらえるので良かったと思っている。
委員	雨の中の開催で700人が集まったが，アンケートの回答者は38人である。親子が来たとする，約3分の1の200人は文字は書けることになるが，38人という数字は期待ができるものなのか，次年度へつながることができるのか，アンケートのやり方は適切だったのか伺いたい。

協働事業者	<p>学生たちにお願ひして、アンケート用紙を使って調査をしていただいた。アンケートをとる時間を考慮すると、開催時間が3時間という限られた中で難しかった。アンケートをとる人員を増やすことができれば、より多く回収できると考えるが、雨天の中でアンケートを38人に回答いただいたことを活かしたい。</p>
協働事業者 介護保険課	<p><b>〔発表：介護助手養成 ちいすけ水戸〕</b></p>
委員	<p>令和3年度の成果としては参加者87名のうち就業した方が9名、令和4年度は参加者77名のうち就業した方が7名であるが、就業しないと答えた70名の原因は何か。</p>
協働事業者	<p>アンケートを御覧頂きたいが、我々としても減ってしまったことについて、ちいすけの役割を考えた。コロナの影響があるかもしれないが、講習の回数を多くやり過ぎたところがある。ニーズとして「働きたい」もあるが、「介護を学びたい」というニーズがあり、アンケートでその学びたいというニーズは満たされていることが分かった。参加者も1年目より2年目が多くなったが、2年目よりも3年目は少なくなったことに関してあまりネガティブには捉えていない。</p>
委員	<p>資料に利用者の話し相手も必要だとあるが、友人も介護の仕事の手伝いをしており、利用者は高齢なので傾聴するシニアを話し相手として求めていると聞いた。話し相手は若い人よりも70代くらいの人を求めているとPRすると、私自身も生きがいや健康づくりとして行ってみたいと思う。</p>
協働事業者	<p>御意見ありがたい。どのような働き方があり、どのようなニーズがあるのかを捉えてチラシ等でPRしていきたい。</p>
委員	<p>介護職は講習を受けないと就労できないのか伺いたい。</p>
協働事業者	<p>事業所自体で求人を募集しているところは沢山あるが、どこで募集しているのか分からないという人がいるため、講習をそのきっかけとしている。</p>
委員	<p>講習には行けなくても就労の相談に乗ると書いていただければ、事業者と触れ合いたいと思う人はいるので、PRを工夫するべきである。</p>
委員	<p>介護助手の就職者の人数は少なく見えるが、3年間の成果として介護に関心がある24名に就労の機会を広げることができた。令和4年度に人数が増加しなかったことについては、3年目なので関心のある人には広報されており、ある程度掘り起こしてしまったところもあったのか伺いたい。</p>
協働事業者	<p>2年目には受講者が増加したという経緯があるが、3年目は興味のある人が他にいなかったというケースが考えられる。講習を1年間に5回開催してしまうと、いつでも行けるという感覚もあったか</p>

	<p>もしれないと思う。来年度は講習の回数を2回に減らし、今後は届いていない地域に広げていく方向である。</p>
委員	<p>広報に関してはやるべきことはやっている印象であり、継続的に無理のない範囲でやるのが大事である。</p>
委員	<p>企画の立場から言うと、参加人数は多く、先へのきっかけづくりという目的があり、素晴らしい企画であると思う。講習を受けて就労へ結びつけることは難しく、講習だけでも主催者として大きなきっかけづくりになっている。講習に行かない人もこういうイベントがあったなど、「ちいすけ」という言葉が浸透してきているので、続けてもらえるとありがたい。介護講座を開催できる人は限られているため、是非頑張ってください。</p>
協働事業者 観光課	<p><b>〔発表：水戸の観光土産品付加価値創出事業〕</b></p>
委員	<p>パッケージ刷新を行う事業者は、最初から森のシェーブル館1社に的を絞っていたのか。</p>
協働事業者	<p>森のシェーブル館については、水戸市優良観光土産品に登録されている土産品の中から、水戸市からの意見も踏まえて学生間で考察した。その中で森のシェーブル館の商品であるフロマージュ・フレをデザインすることは今回の企画の目的・理念に合致すると思った。</p>
委員	<p>水戸の土産品もたくさんあるため、絞ることは大変だが必要であると思う。アンケートや資料を見ると、完成まで24回の企画会議を行っており、私たちでもできない手間を重ねている。また、このアンケートでは多様な回答を得ることができており、水戸市優良観光土産品審査会等の場において、アンケート結果を共有することで、アンケートがより生かされると思う。</p>
協働事業者	<p>梅まつりでアンケートをとり、水戸に観光で来られる方がどういふところに興味を持っているのかを知ることができた。あまり知られていない水戸の土産品を様々な方々に知ってもらえるような様々な取組に生かしてほしいと思う。</p>
委員	<p>サンプルについて、賞味期限は容器に添付と書いてあるが、後から付けるのか伺いたい。</p>
協働事業者	<p>現状はサンプルなので付いていないが、商品として実装し出荷する際に付ける予定である。</p>
委員	<p>フルーツソースのフルーツは水戸市の農家のものを使っているのか。</p>
協働事業者	<p>県内のものを使用している商品もあるが、難しいものは県外のものを使用している。</p>
委員	<p>東京の八重洲地下街で「笠間の栗」と打ち出された商品に人が並</p>

	ぶところを見た。どこ産のものと打ち出すと人も集まってくると思うので、フルーツソースに使用するフルーツも地名を打ち出せると良いのではないか。
協働事業者	御意見の通り、水戸産のものと打ち出せると良いと思う。
委員	乳製品は成分や脂肪等を書くようになっているが、記載しているのか伺いたい。
協働事業者	成分表示は実装時には記載するが、その際にはデザインの違和感がないよう配慮する。
委員	シェーブル館ということは、山羊乳を使用しているのか。
協働事業者	フロマージュ・フレについては牛乳から製造し、通年で制作できるようにしている。
農業公社	森のシェーブル館を運営している者である。シェーブルは山羊を意味するが、フロマージュ・フレについては茨城県産の牛乳を使用している。
委員	牛乳を使っているということは、生産したメーカーを載せているのか。
農業公社	乳業メーカーまでは記載しないが、茨城県産を記載している。
協働事業者 農政課	<b>【発表：キッズトレイルランニング大会】</b>
委員	小学生おおよそ1万3千人の中でチラシを1万1千枚配布されており、ほとんどの小学生にPRされていることが分かる。成沢の自然を知ってもらいたい企画であった。また見学させていただきたい。
協働事業者	私が幼い時も田んぼで遊んでいたもので、森林公園は懐かしい気持ちになる。自然のふるさとと考えるきっかけになれば良いと思う。
委員	参加者からアンケートをとったのか伺いたい。
協働事業者	アンケートはとっていない。
委員	事業報告を見ると、抽象的な検証結果が多い。成沢地区を広めることや子どもたちの教育が目的であり、リアルな意見を聞ける場なので、今後継続事業にするためには、アンケートをとった方が良い。実際の参加者は100名だが、目標は何名だったのか。
協働事業者	当初目標では各学年20名で合計120名であった。各学年ばらつきがあり、キャンセルもあったが、合計104名であり、目標の数字に近い。
委員	実際、1回で最大何人まで参加することができるのか。

協働事業者	例えば、2倍にすると、相当数スタッフも必要になるので、予算の面から難しいが、多少増やすことができるという肌感覚はある。
委員	ブランディングするためには規模を大きくしていかないといけないため、大きくする可能性を考えて欲しい。
協働事業者	令和4年度は手探りであったが、結果や内容を検証し、大きく広げていくようにしたい。
委員	多くの小学生が参加しており、今後も環境マインドの醸成を目的に取り組んでほしい。子どもを対象にしていることから、アンケートは小学1年生もいるので紙ベースでの全数調査は不要だが、走って気持ち良かったかどうかを聞き出すような形で良いのではないか。チラシを作る際に参加者の声を反映させてもらえれば良いと思う。
協働事業者	割愛していたが、参加者の声は拾っており、意見をいただいているので反映させたい。
協働事業者 公園緑地課	<b>〔発表：公園にハートいっぱいの種を蒔こう〕</b>
委員	一生懸命頑張っている姿は感激である。以前は倒れるまでやると言っていたが、ボランティアは無理をしないで続けることが必要である。実施回数は以前と比較すると減っており、改善が見られる。「おもてなし」とはどこまでのことを考えているのか。また、「困った時」とはどういう時なのか伺いたい。
協働事業者	おもてなしについては、食糧支援の寄付を頂き、それを分けていることに関してである。自分でも寄付をいただくことは迷惑に感じることもあるが、取り組んでいる。 困ったことについては、公園利用者の駐車場である。千波湖は小さい広場があるところに200台の駐車場があるが、千波湖は他の団体も使うため、大きいイベントがあると、駐車場が占領されてしまう。公園で遊ぶ子どもが1人もいないのに駐車場が満杯になってしまうので、遊びに来た親子が帰ってしまうのである。
委員	おもてなしという言葉を使わなくても良いのではないか。
協働事業者	御意見ありがとうございます。
委員	説明の中で自己採点が60点であり、公園緑地課に申し訳ないと述べていたが、改善すべき40点について、駐車場の解決できない問題を除き、次年度100点にする計画はできているのか。
協働事業者	解決できない駐車場の問題等は除外させていただきたい。情報処理能力や事務処理能力が低く、活動自体は100点だと思っているが、途中経過の報告をできていないことについて20点だと思っている。次年度は合計で80点程度を目指しており、報告書類の作成に尽力させていただきたい。

委員	活動自体を全力でやっていることは素晴らしいが、事業なので報告書も公園緑地課と相談しながら作成していただきたい。
協働事業者	頑張ります。